

朗読公演 『顔』

作・朗読◎谷 英美^{えみ}(女優)

沖縄戦を生き抜いた
女の半生

2019年1月26日[土]
開場 14:00 開演 14:30
あーすぶらざ 映像ホール(5F)



チケット◎全席自由
前売 1,500円 学生800円
当日 2,000円 学生1,000円

プログラム

第1部 朗読公演『顔』—沖縄戦を生き抜いた女の半生—

第2部 ピーストークと質疑応答

主催◎横浜YWCA・湘南YWCA・平塚YWCA

チケットお求め・お問い合わせ◎Tel:045-681-2903(横浜YWCA) E-mail: office-yokohama@ywca.or.jp

朗読公演



沖縄戦を生き抜いた
女の半生

えみ
作・朗読○谷 英美 (女優)

Profile

谷英美 埼玉県在住、女優、『アローン・シアター』主宰

17歳で曾根中生監督『夜をぶっとばせ』で映画デビュー、21歳『オズの魔法使い』ドロシー役で初舞台、全国巡演。1999年、金子みすゞ一人芝居『空のかあさま』初演。以来、ライフワークとして全国で公演。2007年、その活動を応援する〈応援団〉誕生。2010年、みすゞのお墓のある山口県長門市仙崎の遍照寺と、命を閉じた下関での上演を実現。〈長門ふるさと大使〉を拝命。2015年、『顔』初演、沖縄、関東などで公演。他に『センセイの鞆』、二人芝居『父と暮らせば』『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』などの公演、共演がある。震災後は、これまでの公演でお世話になった福島と陸前高田に、舞台の出前を続けている。



このお話をできあがるまで

世界的画家、丸木夫妻の描いた「原爆の図」で知られる丸木美術館を皆さんにはご存じでしょうか。東松山にある、埼玉の宝物のような美術館です。丸木夫妻は「沖縄の図」も描き、その絵は沖縄の佐喜眞美術館にあります。

そんなところから2010年6月、丸木美術館で沖縄をテーマにした「OKINAWA 展」という企画展が開催されました。私は金子みすゞだけでなく、沖縄戦の朗読も続けていたからでしょう。会期中のイベントへの出演を依頼され、朗読させていただきました。

このお話をモデルとなった新垣さんと出会ったのは、その時です。

以来お人柄に惚れ込み、壮絶な体験をうかがい、その足跡を辿りたくて一緒に沖縄へ行き…とうとう、自分で朗読する作品まで書いてしまいました。

私の筆が、新垣さんの魅力に追いつくはずもありませんが、一人の女の生きた証。新垣さんの生き様が、未来への礎になることを願っています。

天声人語

▼『顔』の真ん中に『顔』のまゝな穴を開いていて……生きていってよかつたんだか……。関東で生まれ育った谷さんが沖縄の抑揚で語る。客席の視線に不安を感じ続けた50分間。上演後のお客様の涙に全身の力がぬけた▼本土の人間が沖縄戦を語るのはおこがまい。でも私も一緒に悼みたいと沖縄の方々に伝えたのです。初めて『顔』を沖縄で演じたのは3年前。入场無料でカンパを集めながら往復の航空券代も貯えなかつたが、お前に何が分かる」と非難されたことがあります。それでも公演を重ねた▼20万もの命が失われた沖縄戦。その惨禍を語り、強く感じたときようは『慰靈の日』だ。激戦地の摩文仁をはじめ、沖縄の各地で催しがある。翻つて本土はどうか。これまで接点がなかった人々もいま住む町で沖縄の払った犠牲をすすんで学び、語り、悼む。そんな日々したい。

2018.6.23

2018年6月23日 天声人語

アクセス

<http://www.earthplaza.jp/access.html>